

参加
無料



探究学習は、 社会にどうつながるのか

— 高校・大学・社会の接続を再考する —

日時

2026年10月14日(水)
15:00～17:00

会場

関西大学 梅田キャンパス 8Fホール
(大阪市北区鶴野町1-5)

<https://kandai-merise.jp/access/>



アクセスマップ

高校で取り組まれている探究学習は、入学者選抜や大学での学び、その先の社会とどのようにつながっているのでしょうか。
本フォーラムでは、企業や地域と連携した取組について、成果だけでなく、実践の中で直面した課題や試行錯誤も含めて共有します。
現場のリアルな声をもとに、高校・大学・社会が探究学習をどのように捉え、その学びを次の段階へつないでいくのかをともに考えます。

対象

高等学校・大学 関係者 ほか

定員

60名(先着順・事前予約制)

オンライン参加可



プログラム

裏面をご参照ください

申込方法

下記または右のQRコードから申込フォームにアクセスの上、お申込みください。
<https://forms.gle/1x9dQWuAE99GGWZ6A>

申込締切
10月5日(月)



申込フォーム

実践報告

探究の“ねらい”と大学・社会の接続
～文理探究科への学科改編を通じて～



大西 弘記氏
大阪府立狭山高等学校 首席

講演①

高校・大学・社会の接続における
探究学習の意味

—コンピテンシー・ベースの教育改革の視点から—

石井 英真氏
京都大学大学院 教育学研究科 教授



講演②

企業経営の疑似体験による
「正解のない答え」を導く思考力の育成

坂口 憲一氏
THINKBASE ACADEMY 代表(中小企業診断士)



14:30～開場・受付

- 15:00 ●開会挨拶 真銅 正宏氏（大学コンソーシアム大阪 高大連携部会長／追手門学院大学 学長）
 ●実践報告 大西 弘記氏
 ●講演① 石井 英真氏
 ●講演② 坂口 憲一氏

休憩・質問票回収

●クロストーク「探究学習は、社会にどうつながるのか」

ファシリテーター・登壇者

- 17:00 ●閉会挨拶 高屋 定美氏（大学コンソーシアム大阪 高大連携部会推進委員会 委員長／関西大学 高大連携センター長、商学部 教授）

最大17:30まで 名刺交換等（自由参加）



実践報告

大西 弘記氏 大阪府立狭山高等学校 首席

プロフィール

地方銀行での勤務を経て、公民科教員として狭山高校に着任。教員17年目。
 2018年より首席。
 2026年3月大阪教育大学連合教職大学院・スクールリーダーシップコース修了。
 勤務校が新しい普通科（文理探究科）への学科改編の対象となったことを受け、校
 内の中心メンバーとして教育課程の再編を含むカリキュラムマネジメントに取り組む。

発表概要

狭山高校では、本年4月に探究を充実させた新しい普通科「文理探究科」を開設しました。本発表では、文理探究科の概要を紹介するとともに、総合的な探究の時間に設定した二つの「ねらいの観点」と、それに基づく地域展開の考え方、さらに地域連携コーディネーターの役割と実践について報告します。

講演①

石井 英真氏 京都大学大学院 教育学研究科 教授

プロフィール

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。日本学術振興会特別研究員（PD）、京都大学大学院教育学研究科助教、神戸松蔭女子学院大学専任講師、京都大学大学院教育学研究科准教授を経て現職。専門は教育方法学（学力論）。日米のカリキュラム研究・授業研究を踏まえ、資質・能力を育むカリキュラム、授業、評価の一体的なデザインを研究している。著書多数。

発表概要

高校・大学・社会の接続における探究学習の意味について考えます。そもそも探究学習とはどのようなもので、いかなる資質・能力や経験を保障するものであるのか。高校における探究学習の展開の中で、学習評価、大学入試や高大接続の形はどう変わってきているのか。その現在地と課題と展望について、一連の改革の背景である、コンピテンシー・ベースの教育改革の視点から考えます。

講演②

坂口 憲一氏 THINKBASE ACADEMY 代表／中小企業診断士

プロフィール

岐阜県出身。商業高校卒業後、信州大学へ進学し、在学中にロシア連邦サンクトペテルブルグ国立大学へ留学。ロシア貿易専門商社勤務を経てIT企業を設立し、30年以上にわたり経営者・ITエンジニアとして活躍。造船AIや臨床試験、生体センシング、STEAM教育に携わるほか、RPG型ケースメソッド教材「THINKBASE」®を活用した高校生指導にも取り組み、多くの教え子を国公立大学等へ送り出している。

発表概要

探究学習は質量拡大と共に、進路選択にも貢献している一方、「探究学習の固定化」及び「探究疲れ」の弊害もあります。進学校での「アカデミックスキル重視」による教員主導の授業、専門高校での商品開発や資格取得等がその例です。多くの団体・企業による催事や競技会等も乱立しています。「綺麗な成果」を求め過ぎではないでしょうか。地元企業をモデルにした「正解のない答え」を考える訓練を通じて、思考力・表現力を育成する取り組みを紹介します。

問い合わせ先

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 事務局（高大連携担当）

TEL:06-6344-9560(平日:9:30~17:30) E-mail: koudai★conso-osaka.jp ※★を@に変えてください

